



**渡辺しんじ** (公明党)

- 1. 多摩市の放課後子ども教室について
- 2. 切れ目のない子育て支援について

- 問 他市の状況をみると、多摩市の放課後子ども教室の取組みは充実していない。ボランティアスタッフの人材不足などを解消するため、運営形態の見直しが必要と考えるがいかがか。
- 答 保護者の意見としても実施日数の拡充などが寄せられている。法人委託も視野に入れ、実施手法の見直しを検討していく。
- 問 法人に委託した場合、現在のボランティアスタッフはどのような形で参画できるか伺う。
- 答 現状のボランティアスタッフとして参画してもらおうか、法人と雇用契約を結ぶなど、今後も地域で活躍できる手法を検討する。
- 問 国の新規事業である「出産・子育て応援交付金」事業を円滑に実施するための後押しをしたい。財源確保が一番の課題と思うが、市長の意見、要望を伺う。
- 答 総合経済対策において交付団体、不交付団体、関係なく、全額国庫負担で手厚い子育て支援を進めていきたい。



**池田けい子** (公明党)

- 1. コロナ禍におけるごみ問題…第2弾
- 2. 子宮頸がんHPVワクチン定期接種について

- 問 バイオマスプラスチック配合の「指定ごみ袋」導入の可能性を問うとともに、ばら売り専用の有料指定ごみ袋のデザインを変え「レジごみ」袋としてはどうか。
- 答 ボランティア袋・清掃デー袋から順次取組み、耐久性や製造コスト等考慮して研究していく。「レジごみ」袋は、先進市の検証結果を参考に検討する。
- 問 2年前に提案した「ごみ出し支援」について、現在の検討状況を伺う。
- 答 ごみ出しが困難な高齢者や障がい者の方を対象に、今年度末の受付開始を目的に準備を進めている。
- 問 保育園等における、使用済み紙おむつの持ち帰りをなくし、市で回収すべきと考えるがいかがか。
- 答 「おむつのサブスク(定額利用サービス)」の導入も含め、園長会とも協議し、研究・検討を進めていく。
- 問 来年4月から9価HPVワクチンが定期接種となる。対象者にはどのように周知を行うのか伺う。
- 答 必要な方に情報が届くよう周知に努める。



**11月9日に全議員研修を行いました**

**— 受講内容・感想をご紹介します —**

**全議員研修「外国籍住民の受け入れと基礎自治体」**

多摩市議会では毎年全議員が集まり研修会を行っています。今年度は「外国籍住民の受け入れと基礎自治体～外国人から選ばれる時代の到来～」をテーマに東京都立大学 人文社会学部 丹野清人教授よりお話をお聞きしました。

現在、多摩市内には約3,000人(令和4年12月1日時点)の外国人が住んでいます。今後看護師、介護福祉士などの海外人材の受け入れが進むことも予想され、外国人住民のさらなる増加や多国籍化、在留資格の細分化など基礎自治体においても様々な対応が必要となってきます。特に言葉の問題への取組みは基礎自治体にとって必須条件となっています。

今回は丹野先生より、受入れパターンや外国人に対する社会福祉、社会保障、保育、教育などについて様々な事例を交えて教えていただきました。

**研修を受けて各議員の感想**

- 研修終了後、各議員より様々な感想がありました。
- ・在留資格がかなり複雑だということ、現制度にかなり無理があるということが理解できた。
- ・日本で暮らす外国人の増加に対し、入管法や在留資格といった法のことは国がしっかりやるべきだと思っていたが、実は地方自治体が要であると学ぶことができた。
- ・在留資格を持つ外国人の方は日本語能力試験4級以上を持って

- いると聞き安心した。住居地の自治会での交流も可能だと感じた。
- ・地域との関わりをどう持ってもらえるか、自治体の果たすべき役割は大きいと感じると共に、住民側の理解をどう得ていくか、地道な活動が必要。
- ・コミュニティへの参加に言語や文化の違いによって大きな壁があると感じた。顔の見える関係づくりを国籍に関係なく進める必要がある。
- ・外国人の方に必要なことを伝える手法など、改善すべき点が見えてきた。
- ・外国人が住みやすいまちとは日本人にとっても住みやすいまち。そんなまちをめざしたい。

多摩市議会は引き続きこのような研修会を通し、様々な情報の収集や問題解決方法などを学び、議員力をレベルアップさせ、より良いまちづくりに取組んでまいります！

